



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Our Future Begins Today” 「私たちの未来は、今日より始まる」
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」
「明日に向かって、今日動こう」
「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ！」
「楽しい例会を」

2017年5月号
NO 489

一方、御子に向かっては、こう言われました。

神よ、あなたの玉座は永遠に続き、また、公正の笏が御国の笏である。

へブライ人への手紙 1章8節

新しい東日本区ワイズ基金規則

新しい『東日本区ワイズ基金規則』が、昨年、7月1日に施行されました。1982年に設けられたワイズ基金には、当然、規定があったわけですが、それは、基金があることを前提として、その基金をどう運営するかを中心に規定していて、基金がそもそも、どういう基金なのか、ややあいまいでした。

新しく制定した『基金規則』では、これまでの使用目的とともに、「ワイズダムに関わる組織や人々の感謝の心を表す機会である」という目的が加わりました。

感謝のしるしとして差し出したのであれば、本来、そこで完結。極論すれば、どのように用いるかは、受けた側の問題であって、出した人には関係がありません。それは、お地蔵さんの前に置かれた賽銭のようなものだと、私は思い

ます。勿論、皆から信任された人が責任をもって、管理・運営するということが前提ですが。

ワイズ基金では、個人やクラブなどから献金が寄せられると、区事務所に保管されている『ワイズ奉仕帳』に献金者名、感謝の気持ち、金額が記されます。奉仕帳には、長年にわたる感謝の言葉に満ち溢れています。

私たちには、ワイズや日々の生活において、「お陰様で」とか、「有難かった」という場面があります。たとえ、それが愛する人との別れであったとしても。その気持ちを、どうやって表したら良いのか、戸惑うこともあります。『ワイズ基金』は、そのような思いを表せる場だと思えます。『ワイズ奉仕帳』が、明るく喜びの溢れる感謝の花束になれば、と思っています。(吉田 明弘)

見沼の田んぼの田植え

WHOウォーキングのご案内



見沼田んぼは、江戸初期に開拓された、現在の浦和、大宮、川口郊外に広がる農業空間です。見沼代用水路の水景色、農風景を楽しめます。爽やかな緑の風に吹かれ歴史を秘める社寺、古民家も訪ねます。5月27日(土)、JR大宮駅集合です。

(詳しいコース案内は、p4をご覧ください。写真は、田植えを待つ見沼たんぼ。)

クラブ役員

会長 高嶋美知子
副会長 篠原文恵
書記 本川悦子
会計 石井元子
担当主事 宮崎純

4月の記録		ニコニコ	8,000円
在籍者数 16人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	200円
出席者数 11人	コメント 0人	ファンド残高	174,920円
メーカーキャップ 1人	ビジター 4人	ホテル校ファンド	11,700円
出席率 81%	ゲスト 3人	ホテル校残高	100,282円
前月修正 -	出席者合計 19人	WHO参加者	33人

5月例会のご案内

今月の強調テーマ：EF、JEF

「お客が来る家は、きれい」といわれます。国においても同じことが言えるかもしれません。

東京 YMCA にほんご学院に学ぶ若い留学生をお招きし、来日して感じた日本の文化や習慣、戸惑ったことなどを話してもらいます。

コーディネーターには、東京 YMCA にほんご学院校長の小野実さんをお願いしました。

日時：5月18日(木) 18:45~21:00

会場：「あんさんぶる荻窪」5F 第1会議室

(杉並区荻窪 5-15-13 TEL/03-3398-3191)

会費：1,500円 (ゲスト・ビジター・メネット)

担当：A班 (篠原、鳥越、村野、吉田)

HAPPY BIRTHDAY

メンバー、メネットには該当者はおられません。

○名札を持参ください。

開会点鐘

ワイズソング

聖書朗読・感謝

ゲスト&ビジター紹介

会食

卓話

「来日して感じたこと」

東京YMCAにほんご学院留学生

チン カセイさん (中国)

グエン ビエト フォンさん (ベトナム)

エンヘバヤル サインザヤーさん

(モンゴル)

ハッピーバースデー

ニコニコ献金

諸報告

YMCA 報告

閉会点鐘

受付 篠原 文恵

司会 村野 絢子

会長 高嶋美知子

一 同

司会者

高嶋 会長

一 同

一 同

一 同

一 同

一 同

一 同

一 同

一 同

一 同

一 同

一 同

一 同

担当主事・宮崎 純

高嶋 会長

—4月第2例会(事務会)—

日時：4月27日(木)

場所：あんさんぶる荻窪 1F

19:00~21:00

出席者：石井、大野、神谷、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田

会に先立って、10月22日にホストするあずさ部会の準備委員会が開かれた。会場候補の、新宿・神楽坂の日本出版クラブ会館を、後日、下見することにした。イベントは、全員が楽しめるものとして、講演、音楽、舞踊などが挙がった。

定例第2例会

<報告事項>

①4月のデータを確認した

②4月の経常会計報告を確認した
会員動向：

堀内浩二さんの7月7日逝去による退会届を区事務所に提出した。

<協議事項>

①入会希望のあった大橋美恵子さんの入会を認め、6月例会で入会式を行う。

②本川悦子次期会長から提案さ

れた次年度、クラブ委員長を含む責任者案を確認した。

③今年度亡くなられた木原洸さんと堀内浩二さんの追悼記事を6月号のブリテンに掲載する。

④例会運営などの、班編成は、現状に合わなくなっているため、次年度に向けて、再編する。

⑤5月第2例会

日時：5月25日(木) 19:00~

場所：あんさんぶる荻窪 4F

⑥6月例会

日時：6月22日(木) 18:45~

場所：未定

卓話は行わず、総会、東京YMCA 国際ホテル専門学校留学生の奨学金贈呈式、大橋美恵子さんの入会式を行う。

<今後の行事予定>

・5月13日(土)：第3回あずさ部アトム評議会、東京たんぼぼクラブ創立15周年祝会(山手センター)

・6月4日(土)、5日(日)：東日本区大会(川越)

・6月10日(土)、11日(日)：西日本区大会(熊本)

(書記・本川悦子)

新年度本川内閣決まる

7月から始まる新年度のクラブ四役と委員長が決まりました。前の役割を引きずらずに新任者に譲りましょう。譲り受けた人は、新しい切り口をさがしましょう。それが、“クラブの活性化”。

* * *

会長 本川 悦子

副会長 石井 元子

書記 篠原 文恵

会計 村野 絢子

直前会長 高嶋美知子

地域奉仕 神谷 幸男

会員増強 吉田 明弘

宮崎 純

国際交流 河原崎和美

高嶋美知子

ウエルネス 鳥越 成代

ユース 村野 絢子

WHO 石井 元子

ブリテン 篠原 文恵

担当主事 宮崎 純

監事 山田利三郎

一部、ご本人の承諾前の“新聞辞令”となりましたが、ご了解願います。



4月例会：仁川大橋について語る片山啓さん



WHO 4月：戦時中、戦車試走路だった多摩丘陵の尾根道にて

－4月例会報告－

4月の例会は荻窪のあんさんぶる荻窪でゲスト、ビジターをお迎えして、大野貞次さんの司会、高嶋会長の開会点鐘で始まりしました。お弁当は、いつもの美濃吉です。緑が鮮やかな、おまめのご飯は食欲をそそりました。

卓話は、茨城クラブの片山啓さん（関東東部部長）です。ご自宅はつくば市ですが、職場が秋葉原にあるので、専門である橋梁の話をしていただきました。日ごろ誰もが世話になっている橋ですが、知っているようで知らない話を皆興味をもって聞きました。

阪神淡路大震災で橋が落ちたことは、日本はもとより、世界でもショックだったこと。だが日本は財政難のため橋の新設はせず耐震補強をして橋の寿命を延ばして、長く使えるようにしていると話された。このほかに橋の種類と用途、施工の方法を話されました。世界の橋についても、歴史的な橋や最近施工した橋など例を挙げながら説明されました。

数字や難しい設計図が出てくるのかと思っていましたが、写真を中心にした説明は、とても楽しく分かりやすかったです。終わりに“橋に人が通るのは平和の象徴です”と締めくくられました。

この後は、いつも通りハッピーバースデー、ニコニコと進行しました。この中で、竹内隆さんが、この月に逝去された堀内浩二さんのお人柄を語られました。

高嶋会長の点鐘で例会を終えました。（本川悦子）

出席者：＜メンバー＞石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、竹内、鳥越、本川、村野、吉田、＜メネット＞神谷、＜ビジター＞浅羽俊一郎・飯野毅与志（東京山手）、小原史奈子（東京たんぼぼ）、片山啓（茨城・卓話）、＜ゲスト＞大橋美恵子、神崎清一（日本YMCA 同盟総主事）、佐藤幸楽、＜メイキャップ＞宮崎（YMCA 業務）

－WHO 4月例会報告－ 多摩丘陵の多彩の緑を楽しむ

4月22日のWHOウォーキングは、多摩丘陵の南端の町田市小山内裏公園から、尾根道を歩き、八王子市立長池公園に下るコースです。参加者33人。

京王線・多摩境駅からすぐ尾根道に登ると、そこは新緑から若葉に変わる多彩な緑の世界でした。太平洋戦争中の戦車試走路は、舗装され、木片チップを敷いた側道もあって、快適に歩けます。公園内には、動植物を保護する聖域・サンクチュアリが4か所もあります。いったん江戸市中に鮎を運んだといわれる道をくだり、低地へ。川が堰き止められ出来た太田切池には、杉の木立が枯れて残り、上高地の大正池のよう。

再び尾根に戻り東に向かいます。雑木林にウグイスなどの鳴き

声、雑木林独特有の匂い、遠い山並みと、五感を澄ますだけで、何の説明も不要です。

誰もいない、ゴミもない芝生広場で50分の昼食休憩。奥多摩幹線道路と交差するトンネルのところで平地におり、長池公園へ。ここも見事な雑木林。沢に下り、浄瑠璃姫伝説の残る長池でたたずみ、野草園を楽しみながら見附橋へ。これは、四谷見附橋を移設したもので、市街にあった時には、観られない角度で遠望しました。9月例会で片山啓さんの「橋の」話を聞いた後だけに感じるものがありました。

園内のネイチャーセンターで解散。それぞれバスで京王線・南大沢駅へ向かいました。朝の降車駅から帰りの乗車駅まで、1日歩いて渡った信号は1つという、リズムよく歩けたコースでした。

ワイズ関係の参加は、石井・吉田（東京西）、中澤・藤江（東京たんぼぼ）、関（石巻広域）、樋口（東京グリーン）でした。

（吉田明弘）

WHO 今後の予定

今後は、○戸越銀座と星薬科大学、○伊勢原の古刹、○八王子城址、○見沼田んぼと通線堀、○船堀公園、○2つの江古田、などの予定があります。

今年から8月に加えて、7月も夏休みとなります。

あずさ部アトム評議会 次年度に備えて学ぼう

本年度最後のあずさ部評議会が、5月13日(土)11:00~12:30、東京YMCA山手センターで開催されます。今回は、漫画・アニメの偉人、手塚治虫を生んだ地にちなんだのでしょうか。「アトム評議会」というネーミングです。

年度最後の評議会は、次年度に向けての予算評議会でもありません。次年度は、いよいよクラブの大野貞次さんが部長を務め、東京西クラブが、部長ホームクラブとなります。

部長ホームクラブのメンバーとして、部長とは何か、部長と各クラブとの関係、部と評議会ホストクラブとの関係などを学ぶ絶好の機会です。

ぜひ参加しましょう。会費無料。登録は10:30からです。

風にのれ、タンポポの種 東京たんぽぽ、創立15年

東京たんぽぽクラブの創立15周年記念祝会が、5月13日(土)1時30分~4時30分(登録1時)、東京YMCA山手センターで開催されます。

15年前、私たちのクラブは、東京山手クラブとともに同クラブのスポンサー(親)クラブの荣誉に浴しました。

実際には、親クラブを煩わすことなく、自分たちで設立を進め、私たちは、頼まれ仲人ならぬ頼まれ“親”にすぎませんでした。その後も、まったく手のかからない“子”でした。

女性だけのクラブであることを打ち出し、クラブ名を「東京たんぽぽYサービスクラブ」とし、そのことに誇りをもっています。

また、発会以来、東京YMCA山手センターで始めた子どもたちの居場所・libyの活動を物心共に支え、毎年、外部の団体などの協力を得て、コンサートを行ってきました。

当初は、東京YMCAの中でもlibyの位置づけが定まらず、クラブの奉仕事業として、どう取り組めばよいのか難しい時期がありました。

男性メンバーが多いクラブであれば、「何をやってるんだ」「はっきりしろ」ということになったでしょうが、「たんぽぽ」は、不透明、不安定さに動じず柔らかく包み込んで待ちました。

その後、新宿区西早稲田の町内の高齢者を対象に童謡・唱歌を歌う会「ひだまりサロン」を立ち上げ、その延長上に大地震被災地への「歌声」で出前を始めました。

振り返れば、「居場所づくり」という、1本の美しいシュプールが鮮やかに描かれています。

メンバー数は、少ないという問題はあっても、個人平均のワイズ奉仕理解度は、東日本屈指ではないでしょうか。

あえて、15年という時期に、記念祝会を催そうというところに、決意を感じます。

親クラブとして、新たな踏み出しに期待しています。

見沼の田んぼの田植え WHOウォーキングのご案内

フラットなコースですが、適当に丘も坂もあります。

期 日：2017年5月27日(土)

コース：JR大宮駅<バス>

締切橋―見沼代用水東縁―

見沼自然公園―鷲神社―総

持院―緑のトラスト保全地

―国昌寺―深井家長屋門―

さぎ山記念公園―加田屋新

田―旧坂東家住宅―三崎台

―<バス>―JR大宮駅

集 合：J京浜東北線・埼京線・

大宮駅中央(北)改札

みどりの窓口前 9:40

解 散：同・大宮駅 15:00

携 行 品：弁当(かならず)、飲料、

敷物、雨具

参加費：300円。初参加の方は別に名札代200円。

YMCA Today

◇2017年度から「東雲ファミリーセンター」は「東京YMCA東雲コミュニティーセンター」と名称変更し、これまでのキッズ英語クラスなどの事業に加え、野外教育プログラム等も実施し、活動を拡充していきます。また「東陽町YMCA保育園」は15年の役割を終え、4月1日付で閉園となりました。

◇熊本YMCAは、地震直後から運営してきた避難所を10月末で閉じた後、現在は、仮設団地内での「支え合いセンター」を受託運営し、見守り支援活動などを行っています。熊本YMCA自身も被災し、いまだに復興の途上がありますが、1年を区切りに前向きなメッセージを発信しようと、4月15日、御船町スポーツセンターで『熊本未来笑店街』を開催しました。現地スタッフの話によると、今仮設住宅に入っている方の約半数が公営住宅への入居待ち、残りの半数が自宅再建中、とのことでした。復興の道はまだ続きます。被災地への関心を失うことのないように、全国のYMCAは、支援を続けてまいります。

◇「YMCAブランドの再生」を目指して、「YMCAの赤三角」に変わる新しいロゴマークが作られており、6月の日本YMCA同盟協議会で発表の予定です。

YMCAがより多くの人には選ばれる団体となること、またYMCAに関わる人が今よりも誇りと愛着をもてる団体となることを目的としています。どうぞご期待ください。(担当主事・宮崎 純)

杉並YMCA元リーダーたち

20年以上前の杉並YMCAの元リーダーが、立派な社会人になって、堀内浩二さんの通夜に参列しました。懐かしいと、彼ら彼女らと、田上正さん(熊本むさし)らワイズメン、メネットと話し合う時間を持ちました。

☆☆ インタビュー ☆☆ 進藤 重光さんに聴く

* * *

進藤重光さん（東京）は、7月
から、東日本区国際・交流事業主
任に就任されます。（吉田明弘）



—進藤さんは、新宿・歌舞伎町で
バーを経営していましたよね。

「仏人カトリック宣教師が始め
た宣教スナックバー『エポペ』（フ
ランス語で「美しい冒険」）の責
任者でした。創設者のジョルジュ
・ネラン神父は、優れた学識と
経営手腕を併せもっていました。
この方は遠藤周作の小説『おバカ
さん』の主人公ガストン・ボナパ
ルドのモデルであったことでも
有名です。このお店は 31 年間続
きました。最盛期には 2 号店も
新宿 3 丁目に出店、私は約 20 年
間 3 代目の責任者を務めました」
—私も 20 年ほど前に、だれかに連
れられて行きました。普通のバー
だったと思います。今は、僧侶が
いるバーなどもあるようですが、
早くからやっていたのですね。

「エポペは 1980 年の創設です
が、その約 10 年ほど前に日本基
督教団の高田英治牧師のバー『25
時』が新宿末廣亭の近くに開設さ
れたのが最初のはずですから、か
なり後発です。ただ当時の白柳誠
一枢機卿や遠藤周作などが株主
として名を連ねた、謂わば教会公
認の会社組織の店でしたから多
くの方に支えられ、なんとか維持
できたのではないのでしょうか」

—バーはバーテンが中心ですね。

「お店ですから美味しいお酒や
料理の用意は勿論ですが、接客態
度や対話が重要です。スタッフは

大学生・院生のキリスト者の留学
生が中心でした。神学や聖書の知
識も必要ですし、私も料理を習
い、シェーカーを振りました」
—始めた動機は、どういうところ
にあったのですか。

「当時、カトリック教会は第 2
バチカン公会議（1962 年-65 年）
の熱気がまだ強く、開かれた教
会・現代化するための典礼刷新を
始めとするさまざまな施策が打
ち出されました。敷居の高い教会
ではなく人々に寄り添う教会、上
から目線ではなく共に歩みなが
ら宣教・伝道をする教会像を求め
ていました。ネラン神父は、それ
を身をもって具現化するために
バーテンダーになったとも言え
ます。私の代になってからは、さ
らにエキュメニカル（教会再一致
運動）な NGO 活動や諸宗教との
対話にも力を注ぎ、サラリーマン
・OL・学生をはじめ、キリス
ト教各教派や、諸宗教の方々が
大勢お越しになって、国際色も豊
かでした」

—ニーズはありましたか

「恋愛や結婚、人生相談も多く、
洗礼を受けた方は 100 人以上に
なります」

—進藤さんご自身は、どうして。

「実は私も最初はお客でした。
大学の先生でありながら蝶ネク
タイをしたバーテンダー姿のネ
ラン神父がシェーカーを振って
いるのを見て、キリストは今も生
き続けているんだな、この人を手
伝いたいと考えてしまったのが
最初です。店の学生アルバイトを
経て、コンピューター会社に就職
しましたが、あなたが経営者にな
らなければ店を潰すとネラン神父
に文字通り脅され(笑)、苦渋の決
断で会社を辞めました。今でも家
を継がなければならぬ人たちの
気持ちがよくわかりますよ」

—なぜお店を開めたのですか。

「新宿・歌舞伎町といえば世界
的に知られた歓楽街で家賃が高
く、安い客単価で、丁寧な対話を

維持するのが非常に厳しくなっ
たという点。昼間は教会の職員と
して、研究セミナーの企画運営や
書籍の編集者、システム管理など
の仕事をごなし、夜にもお客さま
と対話を続けることが体力的に
厳しくなった点。また、お客さま
の社会状況や飲食の文化が変わ
って、知らない人と対面してのカ
ウンター方式でのお酒をあまり
飲まなくなった状況もあります」
—今年は、宗教改革 500 年、カソ
リック側の評価は。

「ルーテル世界連盟とカトリッ
ク教会は 1999 年『義認の教理に
関する共同宣言』を出しており、
2006 年には世界メソジスト協議
会もこれに賛同することを決議
しています。今年の 11 月には長
崎の浦上天主堂で、宗教改革 500
年を記念した合同礼拝もあり、エ
キュメニズムが進んでいます」
—YMCA やワイズを以前から知
っておられましたか。入会動機は。

「YMCA は前からですが、ワイ
ズはお客さまで来られた東京ク
ラブの郡山千里さんのご紹介で
す」

—進藤さんにとってワイズのど
こに魅力がありますか。

「ルワンダでの大量虐殺（1994
年）が発生した際、難民キャンプ
のコーディネーターとして、教会か
ら現地へ派遣された個人的な経
験があります。これを契機に生まれ
た、アフリカやアジアの貧しい
地域を支援する NGO の代表とし
ての活動は 20 年を超えました。
さまざまな体験の中、世界の人々
が連携して平和に寄与する運動
の大切さを学んだことは、ワイズ
のメンバーであり続ける大きな
動機になっています。加えて、気
が付くと早くにして経営者にな
ってしまったわけで、ワイズの優
れた先輩たちが自分のよき先生
でした」

—有難うございました。一度、ワ
イズにおけるキリスト教について
お話を伺いたいと思います。

世界遺産 聖地高野山で 宿坊体験 河原崎和美

紀伊半島のほぼ中央、和歌山県の山上の盆地に位置する高野山。弘法大師・空海が816年に真言密教の根本道場を開くことを許されました。今から1200年前。

今回は娘との2人旅です。東京から6時間かけて行きました。一度、宿坊体験をしてみたく、娘がネットで探したお宿は壇上伽藍の目の前にある西禅寺という由緒正しいお寺です。

入るとすぐに目に飛び込んでくるのは幕末の襖絵。長い廊下を歩き、奥書院と言う離れの3部屋もあるエリアに滞在しました。

思いきりレトロな空間（少しかび臭いのが玉に瑕ではありますが）、炬燵があり部屋からは美しいお庭を見ることもできます。昔懐かしい感じがなかなか心地良かったです。本場の精進料理は、とても美味しく修行僧のおもてなしも素晴らしいものでした。やることもないので、21時に就寝し、翌朝5時30分からの勤行にそなえます。

翌日は、朝の勤行を終え、朝食をいただいてからバスで少し離れた「奥の院」へ向かいます。御廟の奥の岩室で今も生きて瞑想を続けていると信じられている弘法大師の存在。ここは、過去と現在、そしてこの世と異世界を超越しつながりを感じる空間です。

奥の院は大きく2つのエリアに分けることができます。墓地エリアは、そうそうたる戦国武将のお墓がズラリと並びます。そして、弘法大師御廟（こうぼうたいしごびょう）を中心にした聖地エリアは、現実世界とは隔離された空間が広がり一気にタイムスリップする感覚を覚えました。ちょうどお昼の食事時間と重なり、僧たちが弘法大師（岩室）に食事を運ぶ場面にも遭遇しました。

日本屈指のパワースポット「高

野山」で、心も体も浄化される体験は心に残る素晴らしい旅となりました。さすが世界遺産ということもあって、海外のツーリストがととても多かったです。

味覚の記憶

吉田明弘

味覚の記憶は、消えやすいのだろうか。幼い頃、食べた時の状況や光景は思い出すが、味は覚えていない。幼稚園児の時、父の転勤で兵庫県から東京に引っ越すのに、いやだと駄々をごねて「展望車に乗せてやる、タイ飯をたべさせてあげる」とエサがついたことは覚えているが、肝心のタイ飯の味は覚えていない。

一番、古い味覚の記憶は、小学校入学直前、回覧板を表通りの店に持って行ったら、おばさんがセロハンに包んだ、黒いモノをくれた。家に帰って、干しバナナだと知った。気持ち悪く食べなかった。甘い香りを記憶しているので、嗅覚の記憶というべきか。

国民小学校に入って米軍機が空襲するようになった時に学校でもらった蒸しパンを食べたが、一口食べて、とてもまずくて食べられなかった。同じ頃、陸軍省の技官だった祖父が本省食堂で出た食パンを2枚ほど持ってきてくれた。真っ白なパンとふわふわした食感に仰天したが、同時にこれは他人に言うてはいけないことだと、子ども心に思った。

20年5月、まだ雪が軒まで残る新潟県十日町のさらに山奥に疎開した。囲炉裏端で食べた味噌味でも醤油味でもない汁の味がよみがえるが、表現ができない。

モンペをはかされて近所の子ども達と登校した時、彼らが水路に入り石をどかし、ムカデよりも大きくシャコよりも小さい水棲動物に歓声を上げて獲り、小使室で焼いて食べていた。もらわなかったが、大きくなったらこういう

ものも食べるようになるかもしれないと思って見ていた。何よりも道端の湧水が、甘露だった。

部落には店がなかった。川で採った魚、オニグルミなどは、子どもたちで採って、食べた。

疎開生活は3か月。東京に戻った。食糧難。畑を作り、ジャガイモ、サツマイモ、トマト、キュウリ、カボチャ、ナスなどを収穫し、ニワトリ、七面鳥を飼った。玄米を一升瓶に入れ、廊下に置き、そこを通った者が、固い檜の棒で突いて精米した。このあたりは、味も調理も記憶がある。

初めてお金を出して食べ物を買ったのは、小学3年生の時。新宿の靴屋さんの娘が転校してきて、新宿に来ないかと誘われた。長い髪に大きなリボンをつけていた。もう一人の男の級友と3人で新宿駅西口から闇市を横目に傷病兵がアコードオンを弾いている地下道を抜けて、中央口に出たところで角帽を被った大学生が煎ったピーナツを売っていた。三角のセロハン袋を1つ買って3人で分けた。味も良く、大学生って凄いなと思った。

敗戦後から朝鮮戦争、小学生から中学にかけて食の話をしだすと止まらない。

編集後記

今月号のp6は、4月7日に亡くなった堀内浩二さんの追悼に使う積りでした。でも1月に逝去した木原洗さんの時は、企画しなかったもので、どうしたものかと第2例会（事務会）で相談しました。

「お二人の追悼号にしては」「いいねえ」「それなら年度末の6月号の方が」「そうだね」と、6月号に掲載が決まりました。

改めて、お二人の存在感と失った悲しみを感じましたが、いろいろ意見や提案が出て、良い方に決まっていくのは、何とも言えない会議の快感でした。（AY）